

資料1 (「第3章：北東アジアの現状と開発戦略」新井 洋史)

1 - 1 北東アジア地域地図

1 - 2 北東アジア多地域計量経済モデル (NAMIOS I) によるシナリオ分析

1 - 3 表 北東アジア (を含む地域) における多国間協力の枠組みの例

1 - 4 図 地域総合開発計画、広域分野別協力とランドデザイン (概念図)

北東アジア地域地図



北東アジア多地域計量経済モデル (NAMIOS I) によるシナリオ分析

NAMIOS I は、ERINA が 1999 年に発表したモデルで、中国、中国東北部、韓国、北朝鮮、ロシア、ロシア極東、モンゴルの 7 つの地域モデルが貿易モデルを介して統合されたもの。2000-2010 年の中期展望・予測を行うために開発された。政策シナリオ分析の比較対象となる単純外挿ケースでは、北東アジア地域（狭義の地域）の平均 GDP 成長率は 5.43%（2000-2005 年）、6.01%（2005-2010 年）となっている。

シナリオ 1：中韓口協調型成長シナリオ

中韓口の 3 カ国で同時に成長を高める努力（公共投資、政府消費の拡大）を行なうと想定。

北東アジア地域の GDP 成長率は最大で 2%程度高くなる。

シナリオ 2：日韓協調シナリオ

日韓両国が相互に二国間貿易規模を 20%拡大させ、日本からは大幅な直接投資（年間約 100 億ドル）が韓国に対して行われるものと想定。

韓国の輸出と設備投資は拡大し、GDP 成長率は約 2%、輸出は 3-4%高まる。北東アジア地域全体では、2002 年の成長率は 1.8%高まる。

シナリオ 3：ロシアエネルギー開発シナリオ

10 年間でロシア極東を一とするロシア全域で天然ガス、原油等の巨大開発の投資（約 700 億ドル）が進展し、これらの輸出が日本向けに拡大すると想定。

ロシア全体の GDP 成長率は 1.6%、ロシア極東では約 30%も高まる。雇用効果も大きく、ピーク時にはロシア全体で 55 万人、極東ロシアで 18 万人に達する。北東アジア地域全体では、GDP 成長率が 0.8%高まる。

シナリオ 4：日本の景気回復シナリオ

成長を急速に回復させつつ、輸入自由化をさらに推進し、輸入規模で 10%拡大することを想定。

北東アジア地域全体の GDP 成長率は 0.5%、輸出は 0.9%まで高まる。特に目立つのは、モンゴル（2.2%）であるが、他地域でも成長率が拡大する。各国の貿易収支も有意に改善しており、日本経済の貿易サイドからの北東アジア諸国への貢献度の重要性を物語っている。

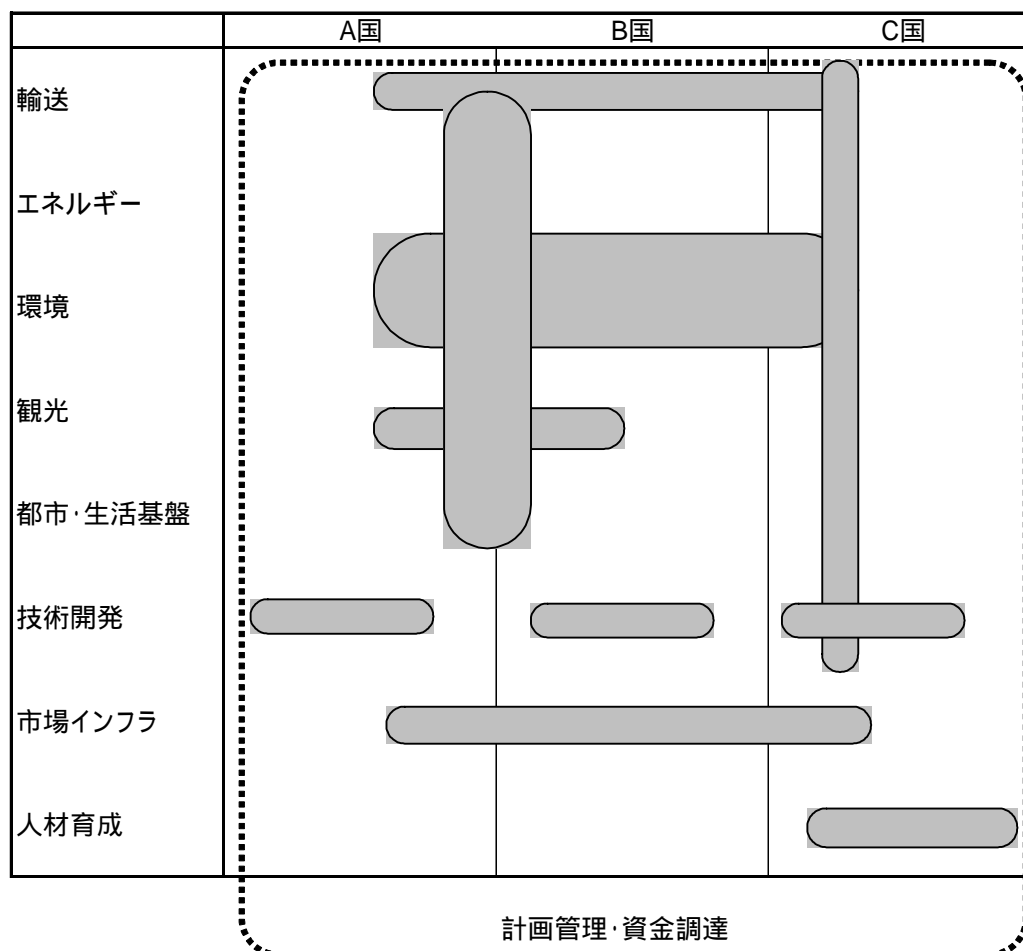
参考文献

宍戸駿太郎、「北東アジア多地域連動モデル (NAMIOS I) と政策シナリオ」、ERINA REPORT、Vol.28、1999

表 北東アジア（を含む地域）における多国間協力の枠組みの例

名称	性格	構成員・参加者の範囲	北東アジアの参加国	摘要
UN/ESCAP(国連アジア太平洋経済社会委員会)	政府間組織	アジア太平洋地域	中国、北朝鮮、日本、モンゴル、韓国、ロシア	本部はバンコクだが、近年、特に輸送問題、エネルギー問題などで、北東アジアにも関心
APEC(アジア太平洋経済協力)	政府間組織	アジア太平洋地域	中国、日本、韓国、ロシア	首脳会議を開催するなど、ハイレベルであるが、拘束力は比較的弱い。幅広い作業部会をもつ。
PECC(太平洋経済協力会議)	NGO(トラック2)	アジア太平洋地域	中国、日本、韓国、ロシア、(モンゴル)	APECに先行し、その設立をリードした。APECへの提言機能を果たしている。
図們江地域開発プログラム	政府間組織	北東アジア	中国、北朝鮮、ロシア、(モンゴル、韓国)	局地的な地域開発の推進が本来目的であったが、その範囲を北東アジア全域に広げる方向。
北東アジア経済フォーラム	NGO(トラック2)	主に北東アジア	中国、北朝鮮、日本、モンゴル、韓国、ロシア	産官学の幅広い参加者の自由な意見交換の場
北東アジア経済会議組織委員会	NGO(トラック2)	主に北東アジア	中国、日本、モンゴル、韓国、ロシア	新潟で開催してきた北東アジア経済会議の蓄積から設立された自由な意見交換と政策提言の場
北東アジア自治体連合	地方政府間組織	北東アジア	中国、日本、モンゴル、韓国、ロシア	地方政府レベル(日本では都道府県レベルに相当)での多方面の協力を推進
北東アジア天然ガス・パイプラインフォーラム	NGO	北東アジア	中国、日本、モンゴル、韓国、ロシア	ガス・パイプライン専門家による共同研究と政策提言の場

図 地域総合開発計画、広域分野別協力とグランドデザイン（概念図）



網掛け部分は、個別のプロジェクト（取組）がカバーする範囲を示している。輸送、エネルギー、環境など、各分野で二国間あるいは多国間で協力する広域の分野別協力（横長の網掛け）もあれば、各国内の特定の地域を対象に地域総合開発計画として実施するケース（縦長の網掛け）もありうる。これら全体を包括し、さらに計画管理や資金調達の面まで含めて考えるのが、地域経済圏総合開発計画（本文では「グランドデザイン」）である（点線枠で囲った範囲）。

なお、本図の作成にあたっては、現実の北東アジアの状況もある程度参考にしたが、あくまでも概念を説明するために作成した架空の図である。